

教育委員会会議録要旨 (令和3年第8回)

定例会	日 時	令和3年4月21日(水) 午後2時00分
	場 所	明石市役所分庁舎4階教育委員会室
出席者	委 員	清 重 隆 信 教 育 長 川 本 まり子 委 員 伊 賀 文 計 委 員 柏 木 輝 恵 委 員 栗 岡 誠 司 委 員
	事 務 局	北條局長 村田部長 田辺次長(管理担当)兼総務課長 桑原次長(指導担当) 新田次長(給食担当)兼学校給食課長 廣岡所長兼次長(情報担当) 前薊明石商業高等学校事務局長 原田部長(明石商業高校福祉科準備担当) 中田次長(明石商業高校福祉科準備担当)兼明石商業高校福祉科準備担当課長 三ノ浦総務課企画総務係長

○次 第

○報告事項

1. 市立明石商業高等学校福祉学科設置に向けて

開催

(清重教育長)

それでは、ただいまから、令和3年第8回定例会を開会します。

本日の署名委員は、川本委員をお願いします。

前回の審議事項は、議案第22号「明石市立養護学校において夏季休業日に授業を実施すること」を審議し、原案のとおり可決されています。

ご確認ください。それでは、本日の審議を始めます。

本日は報告事項のみです。

報告事項1「市立明石商業高等学校福祉学科設置に向けて」について、説明をお願いします。

(中田次長)

報告事項1「市立明石商業高等学校福祉学科設置に向けて」について、ご報告いたします。

まず、「目的・理念」といたしましては、高齢者や障害者の方が住みやすく安心して自分らしく地元で暮らしていける福祉のまちづくりの実現に向けた取組の大きな柱としまして、将来の福祉ニーズに対応できる人材の育成を目的として明石商業高等学校に福祉学科の設置に向けて取り組むものでございます。

内容としましては、高校卒業時点で介護福祉士の国家資格取得ができるということを目指してまいりたいと思っております。

続きまして、「設置場所・時期」につきましては、現在の明石市立明石商業高等学校の敷地内に設置を予定しております。

募集人数につきましては、まだはっきりと決まっておりませんが、おそらく20名～30名ぐらいを定員とし、1学年1クラスと考えてお

ります。時期については、2年後の令和5年4月を予定しております。

さらに、「特色」といたしまして、先ほども申しあげました高校卒業時点での介護福祉士の国家資格の取得を大きな目標に、生徒たちに勉強してもらおうというのが基本的な方針になっております。それ以外で、社会人枠の創設ということで、高校生以外に、例えば、福祉施設で就労されている社会人の方で資格の取得を目指している方や、現在は福祉の分野で仕事はされていないが、今後、そういった分野で働いてみたいという関心をお持ちの方に、それぞれ資格の取得に関する支援や、福祉の入門的な講座の開設を考えております。

次に、総合的な福祉人材の育成ということで、高齢者、障害者、子どもにも対応できる幅広い福祉人材の育成を考えております。

介護福祉士の資格そのものは、高齢者の身体介護や、障害者で言いますと、身体障害の方の介護というのが主な内容になってくるのですが、それに限らず、知的や精神の障害の方、子どもの分野にも対応できるような幅広い福祉の人材育成を考えております。

最後に、地域との連携ということで、まず、市内にあります地域の福祉施設で実習などをさせていただくことにより、地域ぐるみで人材育成を行っていこうと考えております。

また、市内の小中学校との連携としまして、小中学校の児童生徒に対して、福祉の学習機会をさらに充実させていくということで、例えば、高校での体験授業を受けてもらったり、オープンスクール等で学校の見学をしてもらうといったことを考えております。

その他といたしまして、地域における子ども支援や、広く、障害、高齢の福祉分野における活動に参加を通じて、福祉の意識の醸成に努めていきたいと考えております。

説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

(清重教育長)

何かご意見やご質問などがありますでしょうか。

(栗岡委員)

3点あるのですが、まず1点目は、中学生や高校生のニーズの目途について。2点目は、教える人についてうまくいくのか。3点目は、社会人枠についてですが、これは高校生としての社会人枠ではなく、教えるようなソフトを用意するということでしょうか。

そのあたりを教えてください。

(中田次長)

まず、ニーズについてですが、県内で福祉学科が設置されているのは公立高校で3校ございまして、日高高校以外、毎年、ほぼ入試の出願数が定員を超えております。しかし、今年度につきましては、3校とも定員を若干割れている状況です。

あと、指導者の確保についてですが、福祉の教員免許を持った方で、福祉系高校での勤務経験が3年以上ある方や、介護福祉士の免許を持っている方で実務経験がある方、看護師の免許を持っている方で実務経験がある方といった、種類でいうと3種類ぐらいの方の確保が必要となってまいります。昨年の県の教員採用試験の状況は、11名受験されて3名が合格されておりますので、一定数受験をされる方はいると思いますが、そのあたりは今後、兵庫県教育委員会の協力を仰ぎながら確実な確保に努めていきたいと考えております。

あと、社会人枠についてですが、イメージとしましては、高校生として社会人を受け入れるということではなく、社会人として既に資格試験の受験資格を取得されている方で、施設で就労しながら資格の取得を目指している方などに、例えば、夜間の時間帯に補習といった感じで受験対策の直前講座といったものに参加していただき、資格試験に合格するための支援をしたり、昼間の時間に聴講生として入ってい

ただくような形で、支援していきたいと考えております。

(栗岡委員) 社会人枠という言い方を少し変えたほうがよいかもかもしれません。

(伊賀委員) 県内に公立3校、私立1校に福祉科があると思いますが、実際、卒業した人がどの程度、そういった施設で働いているのでしょうか。

(中田次長) 武庫之荘総合高校にお伺いしたところ、卒業生30名ぐらいで、5名が福祉関係機関に就職したということですが、その他の方は、福祉系の大学や専門学校に進まれる方が多いようです。

全体で見ましても、就職と進学の間方ある中で、進学については福祉系の進学が多く、就職される方に関しては100%福祉関係機関に就職されたと聞いております。

(柏木委員) 福祉学科4校の事例としまして、介護福祉士の受験率は100%に近い感じなのでしょうか。

(中田次長) 公立3校につきましては、介護福祉士の資格取得を目指すという方針で授業をされておりますので、ほぼ100%の方が受験をされております。受験資格については、高校卒業で受験資格を得られるのですが、卒業見込みでも受験できますので、高校3年の1月に受験して3月に結果が出ますので、卒業する時には取得されております。

(川本委員) 介護福祉士の受験資格は、どういったものがあるのでしょうか。

(中田次長) いろいろなパターンがあるのですが、専門学校を卒業された方、福祉系高校卒業の方、資格はないですが実務経験が一定の年数以上あり、それに加えて講習を受けられた方、いろんな形で受験資格は可能となっております。

(川本委員) 先ほどのご説明の中で、敷地の中で受け入れるということでしたが、新しい校舎か何かを建てるということでしょうか。

(中田次長) 実習棟ということで、実際に身体を動かしてといった実習が必要に

なってきますので、それについては別に施設を設ける予定にしております。

(川本委員) そうしますと、どこか連携先を見つけてそこで実習するのではなく、敷地の中にそういった施設を建てて、そこで実習するということですね。

(中田次長) 校内での実習は、実習室を使用した実習もありますし、それ以外にも校外の施設で、実際に現場に受け入れてもらって実習をするといった2パターンございます。

(川本委員) 外での実習も必要だということですね。

(中田次長) はい。

(川本委員) あと、社会人が入ってくるということで、すごく子どもたちにとって良いことだと思います。大人の方は熱心に授業を受けられていると思いますので、夜間だけではなく、昼間一緒に何かをすることもあるのでしょうか。

(中田次長) 具体的なことはこれからになってまいります。先ほど申し上げましたとおり日中の時間帯の授業や、放課後に高校生向けの受験の直前対策を行ったときに、聴講生といった形で入っていただいたら、高校生の方と一緒にありますので、正規の授業外の場合もありますが、その時間は机を並べることになります。

 実際、他の学校で、社会人の方から要請を受けて受け入れたことがあるといったお話を聞きました。実際に現場で働いている方と直接関わることができるということで、子どもたちにとっても刺激になっているとのことでした。

(栗岡委員) 現在、1学年で商業科6クラス、国際会計科1クラスありますが、その定員はどうなるのでしょうか。

(中田次長) 現時点では、商業科や国際会計科の定員を減らすという方向は出ておりません。あくまでも、福祉学科として1クラス増やすといったところまでしか決まっておりません。

今後、明商全体としての運営を考えていく中で、そういった議論も出てくる可能性もあると思っております。

(栗岡委員) 少子化の時代ですので、どの高等学校も定員を減らすか、減らされているのかわかりませんが、そういう方向の中で増やすことが可能なのかと思いを質問しました。

(川本委員) 明石商業高校を卒業して、明石の施設で働いてもらいたいという気持ちがあると思いますが、その場合に、何か奨学金等を出して何年か勤めたら返さなくてよいというような、何かお金の面で考えていることはありますでしょうか。

(中田次長) そういった就労に関する補助金は考えておりませんが、地域ぐるみで人材育成をするということで、当然、地域で就職していただきたいと思っておりますし、実習等で市内の施設に行く中で、施設で職員の方と一定の関係ができれば、そのままそこで就職するといった流れもできるのかなといった期待は持っております。

(前園事務局長) 奨学金といいますか、高校の授業料に関してですが、就学支援金というシステムがありまして、9割の生徒が授業料実質無料となっております。

おそらく福祉学科に来る生徒も、同じような状況になるのではないかと考えております。

(原田部長) 国のほうで、令和3年度から、新たに返済免除付きの福祉系高校修学資金貸付事業が開始され、通われている生徒を応援しようといった動きも出ておりますので、そういった国の補助金を活用することで、

できるだけ支援できると思っております。

(柏木委員) 令和3年度の受験生の状況を教えてください。

(前蘭事務局長) まず、商業科は、一般入試が定員120名に対して129名の1.08倍、推薦入試が定員120名に対して137名の1.14倍、国際会計科が定員40名に対して32名の0.8倍となっております。

(栗岡委員) 確認ですが、福祉学科ということですので、全県学区になりますね。

(中田次長) はい、全県学区になります。

(川本委員) 高齢者、障害者、子どもにも対応とありますが、初めはとりあえず高齢者が対象になるのでしょうか。

(中田次長) 具体的な授業の順番はこれからですが、介護福祉士ということが前面に出ておりますので、入学してくる生徒も高齢者といったイメージで入ってくると思いますし、割合的にも介護福祉士の勉強が一番多くなると思いますが、そこにこだわることなく機会を捉えて、いろいろなことを行っていきたいと考えております。

(柏木委員) 今後のスケジュール的なことを確認したいのですが、令和5年4月からというのは決定でしょうか。

(中田次長) 現時点での方針として令和5年4月になっておりまして、それに間に合う形で準備を進めております。

実際、生徒の募集は前年度の令和4年度に入ってから、県から一般の公立高校の入試と合わせて情報発信がされていくと思いますので、おそらく受験生に情報が届くのは、その時期だと思っております。

(柏木委員) では、まだ決定ということではないのですね。

(中田次長) 手続き的に、県の認可や教員の配置といったことが必要になってまいりますので、現実問題としては、そういったことが整わないと開校はできないということになっております。

今の段階では、そこを目指して準備を進めております。

(川本委員)

高齢者施設の方の感触や反応はいかがでしょうか。

(中田次長)

施設の方とお話しする機会があったのですが、やはり人材不足で確保が難しいというのは、高齢に限らず障害の分野全体でありますので、明石商業高校の福祉学科設置に関しては非常に好印象だと感じております。

(伊賀委員)

医療機関としては、とてもそういった人材が欲しいのですが、看護師は何人以上配置といった規則はありますが、介護福祉士は特にないので、なかなか厳しい部分もあります。ですので、うまくいくのかなといったことを感じます。

(栗岡委員)

介護福祉士について、給与的な側面で魅力はあるのでしょうか。

(中田次長)

介護福祉士の資格が無い方でも仕事をすることは可能ですし、そういった方も多くいらっしゃるのですが、資格を持っていることで、一定の資格手当が付くということは聞いておりますし、国の制度としましても、毎月一定額を加算するとあり、これについては施設側が国に申請して、通れば一定の加算があるといった制度がございます。

(川本委員)

例えば、修学旅行で先進的な国に行くといったことや、先進的な施設に行くといったことがあれば良いと思います。

(中田次長)

修学旅行に限らず、いろいろな課外活動の場面で、いろいろな刺激を子どもたちに与えられるようになれば良いと思っております。

(清重教育長)

以上で本日の議事は全て終了いたしました。

以上をもちまして、第8回定例会を終了いたします。

(14:30 閉会)